

令和5年度「ふくしま『未来の教室』授業充実事業」

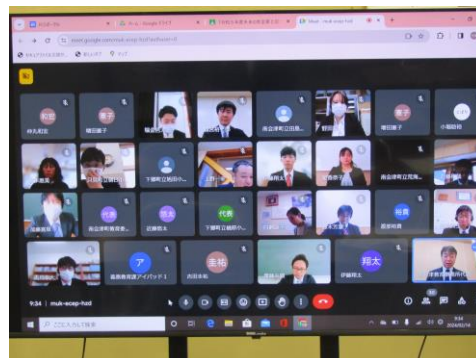
探究的な学び・個別最適な学びへ向けて

2月14日（水）、「ふくしま『未来の教室』授業充実事業」第2回地区別研究協議会をオンラインで開催しました。

実践校である荒海小学校、只見中学校から、3年間の事業の集大成として、**学校の実態に応じた効果的なICT活用実践**を、また伊南小学校からは**情報モラル、メディアリテラシーの育成に向けての取組**、荒海中学校からは**ふくしま情報モラル診断への取組**を発表していただきました。

また、義務教育課指導主事による行政説明、文部科学省GIGA StuDX推進チームによる情報提供、各中学校区に分かれてのグループ協議、福島大学人間発達文化学類 平中宏典准教授による「GIGA スクール構想3年間で見えてきた成果と課題」と題した講演を行いました。

チャット機能等を使った情報共有や共同編集により進捗状況が見える化することで、教科書での調べ学習、タブレットを用いた調べ学習など、授業中における多くの**協働的な学びが個別最適な学び**につながっていきます。まずは学習の中でICTを使ってみることが大切であり、いずれは子供たちが文房具のように使う姿を目指したいものです。**次年度以降も、ICTを授業の中で積極的に活用していきたい**という気持ちが大いに高まった協議会となりました。



【研究協議会の感想から】

- 学校間で、すでに差が開いていることを感じた。高校進学までを視野に入れると、小学校でどれだけ触れているかは大きい。
- 効果的なICTの活用場面を共有し、ICTを活用する教員の意識を高めながら、子供たちのICT活用能力や学力の向上に結びつけていきたい。
- 平中准教授によると「学修者」が学び取る授業でうまくICTを活用すると、学力が飛躍的に伸びるという話に衝撃を受けた。また、各学校がICT教育を進めていくことが大切だと感じた。教育課程に反映できるようにしたい。
- 子供たちがICTを使う・使わないを選択し、必要な時に進んで活用して問題解決できる状態にしていく必要性を感じた。
- ICT活用が苦手という意識を克服するためには、個人のがんばりに期待するだけでなく、組織的に取り組むことが必要であると感じた。
- 校務処理にも積極的にICTを活用できる様にお互い知恵を出し合い、できるところから取り入れ負担軽減につなげていきたい。
- StuDX Style等の情報サイトについては、まだ見ていない先生方もいると思うので、再度周知していきたい。

参考資料（QRコード）

・「GIGA StuDX メールマガジン」



・文部科学省 YouTube/mextchannel
「一人一台端末で学校が変わる」



小学校編



中学校編

協議会では、平中先生や義務教育課の指導主事等が「『未来の教室』や『メディアリテラシー』の事業は、今年度で終わります。大切なのは、この3年間で積み上げたものを今後の教育活動につなげていくことです。」という呼びかけを繰り返していました。令和6年度の教育課程の中に、ICT活用や情報モラル教育について「いつ・どこで・だれが・なにをするか」を明記することが、事業にご協力いただいた立荒海小学校・只見中学校・江川小学校・田島中学校・只見小学校・檜枝岐中学校・伊南小学校・荒海中学校の取組の成果を生かすことにもつながっていきます。一例として、荒海中学校と伊南小学校の指導計画の一部を掲載しますので、ぜひ参考にしてください。

〈荒海中学校〉

令和6年度情報教育指導計画

1 目標

- (1) 学習効果を高めるための情報機器の効果的な活用を図る。
- (2) 情報モラルを身につけ、情報メディアを自主的・計画的に活用できる人間性豊かな生徒を育成する。
- (3) コンピュータを活用した学習の充実を図り、生徒の興味・関心を高め、自主的な学習態度を育成する。
- (4) 教師自らの情報処理能力及び関連機器の運用能力を高めることにより、教育事務のシステム化を図る。

2 方針

- (1) 情報機器の効果的活用を図るため、各設備を全員が活用できるように操作技術の向上を図りつつ、機器の系統的管理に努める。
- (2) 課題提示や課題解決において、コンピュータを効果的に活用し、生徒の自主的・自発的な学習活動を育成するとともに、授業の質的転換を促すように努める。
- (3) コンピュータや教材提示装置、ネットワークシステムなどの研修を必要に応じて実施し、教師自らの情報処理能力を高めるように努める。

3 指導内容

総合的な学習の時間	技術科	学級活動	道徳	その他の教科
【4月】 ・インターネット、ICT機器の使い方 (1・2・3年) 【1・2学期】 ・情報の収集と資料の整理(全学年) 【3学期】 ・研究のまとめ、壁新聞作り(全学年)	【後期】 ・デジタル作品の設計、制作 (1年) ・コンテンツのプログラミング (2年) ・計測制御に関するプログラミング (3年)	【通年】 ・上級学校調べや進路の内容について(全学年) ・情報モラルと通信機器の利用の注意(全学年)	【通年】 ・ <u>情報社会の倫理、法の理解と遵守(全学年)</u>	【国語】 ・ <u>文献の引用の仕方</u> 【英語】 ・ <u>相互評価での活用</u> 【数学】【理科】【社会】 ・ <u>映像コンテンツの視聴</u> ・ <u>結果の集約、グラフ化</u> 【体育】【音楽】【家庭科】 ・ <u>生徒の活動の確認と情報収集</u> 【美術】 ・ <u>グラフィック機能を使ったデザイン構成</u>

4 努力事項

- (1) 情報機器の活用能力を高めると共に、教育課程への位置づけを明確にし、効果的な活用による授業の改善に努める。
- (2) ソフトウェアの種類や機能、特性などに関する知識を深め、指導過程における効果的な活用について研究を進める。
- (3) コンピュータや教材提示装置、ネットワークシステムなどの運用能力を高める。
- (4) 機器の利用法および施設充実の研究を進める。
- (5) 情報・資料の収集・整理に努める。

情報活用能力育成のための年間指導計画 6学年

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間時数
創意	タブレット端末の使い方や情報モラルを主とした、ICT機器への慣れ親しみ												
国語 書写		ふくしま情報モラル診断		インターネットでの議論から考えよう 情報判断		ふくしま情報モラル診断	【情報】情報の信頼性と著作権 著作権			ふくしま情報モラル診断			175
社会		3 憲法保障の願いを 整理する政治 情報判断		通年：インターネットを用いて、情報収集・活用 GIGAワークブック『調べる』									105
算数						7 データの調べ方 Bプログラミング							175
理科				通年：写真や動画による観察・実験の記録				9 電気と私たちのくらし Aプログラミング					105
総合				通年：インターネットを用いて情報収集・記録・活用		こまき発表会 発表資料作成							70
学活		タブレットを使う時の ルールを決めよう	修学旅行										35
道徳													35
外国語													70
音楽													50
図工													50
家庭													55
体育													90

